**『カナダの胸部外科見学報告－トロント総合病院』**

筑波大学附属病院　茨城県地域臨床教育センター　呼吸器外科　鈴木久史

派遣先：Toronto General Hospital（トロント総合病院）

住所：200 Elizabeth St. Toronto, ON, Canada M5G 2C4（トロント、カナダ）

期間：2012年11月12日　～　2013年1月14日

トロント総合病院は、トロント大学との協力関係にある病院で、カナダでもトップクラスの症例を有する病院である。今回、自分はこのトロント総合病院の胸部外科の手術見学を目的に2か月間の予定で渡加した。

胸部外科（心臓血管外科は除く）は7人のスタッフ外科医と数人のレジデントおよびフェロー（研修に来ている外国人専門医）から成り、ほぼ毎日2つの手術室を使用して手術が行われていた。7人のスタッフのうちひとりは食道外科を得意とする外科医であるが、その他は肺外科を専門とする外科医である。肺外科医の中でもそれぞれ得意分野があり、胸膜肺全摘や人工心肺を使用するような大きな手術を得意とする外科医や、胸腔鏡手術やロボット支援手術などの低侵襲手術を積極的に取り入れている外科医、硬性気管支鏡や気管切除など気管疾患を多く扱う外科医、肺移植に関する知識が深い外科医、などである。自分は一人の外科医にずっとついて見学するのではなく、胸部外科の手術が行われている２つの手術室を自由に行き来して様々なスタッフ外科医の手術を見学するスタイルをとったため、様々な種類の肺外科手術を見学することができた。スタッフ外科医はそれぞれ曜日を決めて自分の手術室の利用枠をもっており、外来で診察した患者に手術が必要と判断すれば自分の手術室利用枠内で予定を立て、各自責任もって治療するというシステムであり、主に教授をトップに単一チームとして構成される日本の大学病院の医局とは異なる点と思われた。

疾患に対する基本的な治療方針、術式については日本と大きな相違はなかったが、日本ではまだほとんど行われていない肺癌に対するロボット支援手術が行われており、数例見学することができた。このロボット支援手術見学は今回の海外病院見学の目的のひとつであった。現在日本ではロボット支援手術は前立腺がんに対してのみ保険診療として認められており、肺がんに対してはまだ認められていない。しかし、今後肺切除にも適用されていくと考えられるため、今回の経験は今後の肺癌に対するロボット支援手術導入に向けて非常に参考になると思われる。

その他日本であまり見られない術式としては肺移植があげられる。国内では絶対数が少なく、また実施可能施設が限られていることからなかなか実際に経験することが難しい術式であるが、トロント総合病院は年間100例を超す肺移植手術を行っている。つまり定時手術以外に、緊急手術として100例超の肺移植が行われているということである。レジデント＆フェローは別チームとなるが、執刀は胸部外科のスタッフ外科医になるので彼らの仕事量は大変なものである。

臨床だけでも大変な忙しさであるはずだが、スタッフ外科医のほとんどがラボを持っており研究員を集めて研究を行っている。単一施設としては世界的にも多くの肺移植症例をもつ病院であるため肺移植に関する研究が多く行われていた。

今回、臨床・研究の両方の面でカナダだけでなく世界をリードしているトロント総合病院を見学する機会を得られ、大変貴重な2か月間を過ごすことができた。筑波大学の「組織的な若手研究者等海外派遣事業」プログラムに感謝したい。